



自動車リサイクル促進センター



阿部 知和 氏

自動車リサイクル促進センター
専務理事（COO）

阿部 知和（あべ・ともかず）氏：1959年東京都生まれ。84年東北大学工学部卒業後、出光興産入社。2000年ホンダエンジニアリング入社、車体研究開発部長、成型技術部長、本田技研工業環境リサイクル推進室長、資源循環推進部長を経て、19年7月から現職

写真撮影：村田 和聡

環境に配慮した車社会を支援

自動車の電動化によるリチウムイオン電池のリサイクルなど新しい課題にも対応する。災害対応のための情報提供や不法投棄を減らす活動などサービス提供にも力を入れる。

——自動車リサイクル促進センターの事業内容について教えてください。

阿部 循環型社会の実現に向け、自動車リサイクルの様々な課題に対応するための自動車業界の横断的機関として2000年に設立されました。使用済み自動車の適正なリサイクルや資源の有効利用、環境保全に寄与する活動をしています。具体的にはユーザーからお預かりするリサイク

ル料金の管理や運用のほか、リサイクル促進のための調査研究、啓発や情報提供もしています。

——アニメーションを使った宣伝活動も話題になっています。

阿部 「えんとつ町のプペル」の絵本をベースとして、「ゴミ人間プペルとクルマくん」というオリジナルの動画を作りました。若者に自動車リサイクルに対する理解を深めても

らうため、自動車教習所のテレビで放映しています。子どもたちも興味を持つ内容なので、イベントや学校などでも展開します。

——サービスを拡充していますが、どのような内容ですか。

阿部 激甚化する自然災害に備え、がけ崩れで車が埋まったり、洪水で車が水没したりする被害を想定し、行政側に被災した車の処理の方法や

■ 自動車リサイクル促進センターの主な活動

大規模災害への備え

大規模な災害が発生した時でも、自動車リサイクル法に基づく対応が適切に行われるよう、自治体への支援を行っている。写真は、東日本大震災で被災した自動車を集めた仙台市の仮置場（2011年11月）



保管場所について情報を提供しています。また離島の不法投棄車をなくすための活動もしています。使用済み自動車の処理は本土に船で運ばなければならないのですが、運搬費用がかかります。費用の80%を支援して、周知活動も続けています。——国際協力機構や自治体などが発行するESG債に投資をしています。狙いは何ですか。

阿部 グリーンボンド等のESG債投資は18年に開始し、取得実績は20年9月時点で累計で44億円となりました。ユーザーからお預かりした資金を有効に運用するため、循環型社会に寄与する内容の投資を重視しています。9400億円の運用資金の一部ではありますが、今後も内容がよければ増やしていきたいと考えています。

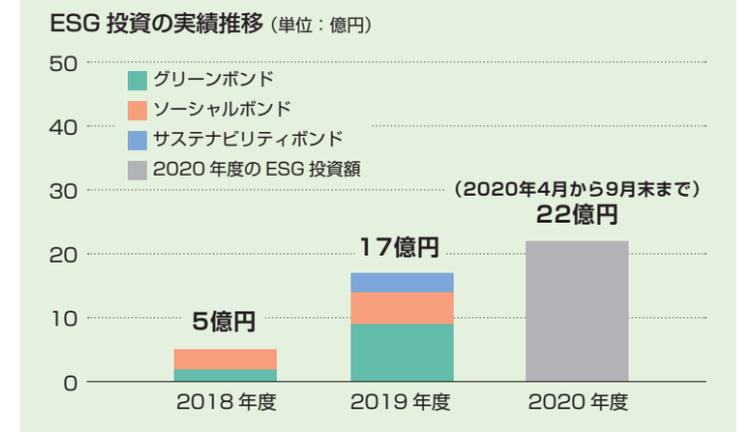
電池のリサイクルが課題

——中国の廃棄物輸入規制の影響で、自動車リサイクルも影響を受けています。この問題にどう対応しますか。

阿部 中国や東南アジア諸国で廃棄

ESG債への投資

2018年度から開始した投資は、年々その額を増やしている



写真・資料提供：自動車リサイクル促進センター

物輸入規制が開始されてから、廃プラスチックの処理を日本国内のリサイクル事業者が担うことになりました。その結果、廃棄物処理全体が滞り、自動車リサイクルも影響を受けました。

自動車のシュレッダーダスト（金属類などを回収した後に残るゴムやプラスチックなど）を処理するためには遠隔地の再資源化施設に運搬する必要があります。環境への負荷をかけてしまいます。

この問題に対応するため、シュレッダーダストの発生量を軽減する施策の検討など、関係者との連携に努めています。

——ハイブリッド車、電気自動車が増えています。電動化が進む自動車のリサイクルはどうなりますか。

阿部 ハイブリッド車や電気自動車は30年ぐらいまでに50～70%を占めると「未来投資戦略2017」として国が予測を立てており、リチウムイオン電池をどう処理するかが課題と

なります。再利用のための回収スキームや、原料を回収するためのリサイクル技術など、リサイクルが進むように関係者間の情報共有や連携を広げていきます。

——自動車リサイクルにおける現状の課題と今後の展開について教えてください。

阿部 国内車の販売台数は今後、減少していくとみられています。一方で、循環型社会がキーワードになっているため、廃棄物の焼却処理で発生する熱エネルギーを回収する「サーマルリサイクル」は難しくなっていくでしょう。今後、どのようにして再資源化を図っていくのが課題になってきます。

自動車リサイクルの制度の中でいかにして使用済み自動車などの追跡可能性（トレーサビリティ）を管理していくか、検討してほしいという声も出ています。リサイクル環境の変化にどう対応していくかが課題となります。